

令和8年 大町市議会 6月定例会
 市政に対する一般質問通告並びに質問要旨、順位
 (1日目5名、2日目5名、3日目2名予定)

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
1	14番 二條孝夫 [一括]	<p>1. 市の抱える様々な課題に市長はどう対応してきたか</p> <p>(1) 多様な市民ニーズに答えるべく牛越市政20年間のかじ取りを問う。</p> <p>【背景・論点】 少子高齢化、著しい人口減少、そして多様化する市民要望を背景に、市が抱える課題解決のための、市長の判断を論点とする。</p> <p>【ねらい】 今回の質問は、牛越市政20年間の総括を求めるものではない。様々な市の課題に対して、市長がどのように乗り切ったのかを問うことにより、今後の新市長の市政運営の参考になればと思う。未来に向かってより良い大町にすべく、新市長の新たな行政手腕の発揮と斬新な発想への期待を込めるねらいがある。</p>
2	12番 中牧盛登 [一問一答]	<p>1. 市民参加と協働のまちづくりについて</p> <p>(1) 20年間続けてきた「ひとが輝くまちづくり事業」の成果はどうだったのか。</p> <p>(2) 市民参加と協働の進め方について</p> <p>【背景・論点】 (1) 牛越市長就任以来、市民参加と協働のまちづくりを市政の根幹に掲げ、行政主導から市民とともにつくる市政への転換を目指して20年間取り組んできた。その代表的な事業の一つとして「ひとが輝くまちづくり事業」がある。</p> <p>(2) 今から17年前、平成21年3月に市民参加と協働のまちづくり推進基本指針が策定された。その指針の徹底と進行管理はどうだったのか。</p> <p>【ねらい】 (1) ひとが輝くまちづくり事業のチェック。</p> <p>(2) 市民参加と協働の推進に関する条例制定を提言する。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
3	9番 栗林陽一 [一問一答]	<p>1. 学校給食費無償化の来年以降の対応について</p> <p>(1) 来年度以降も継続するのか。</p> <p>(2) 中学校の給食費無償化は行わないのか。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 大町市では、小学校給食費の無償化が実施されているが、一方で、無償化が今後も継続されるのか、また対象範囲をどこまで広げるのかについて、市民の関心が高まっている。また、中学生のお子さんを持つ家庭では、部活動費や学用品費、進学に向けた教育費などの負担が増加する時期であり、経済的負担感が大きい。そのため、小学校だけでなく中学校まで無償化を拡大してほしいとの声もある。国では学校給食費無償化に向けた議論も進められているが、現時点では自治体ごとの対応となっており、自治体間格差も生じている。 そのため、市として来年度以降どのような方針で取り組むのか、市民に対して明確な方向性を示す必要がある。</p> <hr/> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の学校給食費無償化の継続方針を明らかにする。 ・中学校給食費無償化について、市の考え方と今後の検討状況を明らかにする。 ・子育て世帯の経済的負担軽減に対する市の姿勢を問う。 ・保護者が安心して子育てできる環境づくりにつなげる。 ・単年度対応ではなく、持続可能な制度設計について議論につなげる。 <hr/> <p>2. 公民館活動における市民サークルの意義について</p> <p>(1) 公民館の役割を行政はどう評価しているのか。</p> <p>(2) 市民サークルをどう評価しているのか。</p> <p>(3) 公民館活動とそれ以外の市民サークルを行政はどう区別していくのか。</p> <p>(4) 使用料の負担増は、市民サークル活動にどのような影響があると考えているのか。</p> <p>(5) 高齢者・若者の地域参加への影響をどう考えているのか。</p> <p>(6) 公民館使用料の見直しは考えているのか。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
3	9番 栗林陽一 [一問一答]	<p>【背景・論点】 公民館は、社会教育法に基づく地域の学びと交流の拠点として、長年にわたり地域活動や市民サークル活動を支えてきた。特に高齢者の生きがいづくり、地域住民同士のつながり、若者や子どもを含めた世代間交流など、地域コミュニティ維持に大きな役割を果たしている。</p> <p>一方で、近年は公民館使用料や施設運営の見直しが議論される中で、「公民館活動」と「一般的な市民サークル活動」を区別する考え方も示されている。しかし実際には、市民サークル活動の多くが地域の交流・健康づくり・文化継承・孤立防止など公共的役割を担っており、単純に線引きできるものではない。</p> <p>また、使用料負担が増加した場合、高齢者や若者を中心に活動参加が減少し、地域コミュニティの縮小につながる懸念もある。</p> <p>特に地方都市では、地域活動の担い手不足が課題となる中、公民館が果たす役割はむしろ重要性を増している。</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館の社会教育施設としての役割について、市の認識を明確にする。 ・市民サークル活動の公共的・地域的価値について行政の評価を確認する。 ・「公民館活動」と「一般サークル活動」の線引きの考え方を明らかにする。 ・使用料負担増による地域活動縮小への懸念を共有する。 ・高齢者や若者の地域参加を支える視点から政策を問い直す。 ・公民館使用料の在り方について、市民参加を重視した見直しを促す。

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
3	9番 栗林陽一 [一問一答]	<p>3. 北アルプス国際芸術祭について</p> <p>(1) 国補助が認められなかった理由をどのように分析しているのか。</p> <p>(2) 総合ディレクターとの契約の内容と妥当性をどう考えているのか。</p> <p>(3) 今後、市民理解をどのように得ていくのか。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 北アルプス国際芸術祭は、大町市の観光振興や地域活性化を目的とした大規模事業として実施されてきた。一方で、多額の公費投入を伴う事業であることから、市民の間では費用対効果や事業運営の妥当性について様々な意見がある。 特に前回、国の補助が認められなかったことは、事業内容や運営手法、申請内容などに何らかの課題があった可能性も考えられ、市として十分な検証と説明が求められている。 また、総合ディレクターとの契約についても、契約内容は適切だったのか、業務範囲や成果は明確だったのか、金額の妥当性はどうかなど、行政としての説明責任が問われる。 さらに、物価高騰や市民生活への負担感が強まる中で、大規模文化事業に対する市民理解をどのように得ていくのかも重要な課題となっている。</p> <hr/> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国補助が認められなかった原因について、市の認識と検証状況を明らかにする。 ・総合ディレクターとの契約の妥当性や説明責任について確認する。 ・大規模事業における行政のチェック体制を問う。 ・市民負担と事業効果のバランスについて議論する。 ・芸術祭に対する市民理解と合意形成の在り方を確認する。 ・今後の文化事業運営の透明性向上につなげる。
4	16番 大和幸久 [一問一答]	<p>1. 牛越市政における不祥事について</p> <p>(1) 市民の市政信頼回復に向けた課題は何か。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
5	13番 山本 みゆき [一問一答]	<p>1. また来たくなる大町へ「見せる観光から育てる観光へ」</p> <p>(1) 観光振興計画の「目指す姿」をどのように描いているか。</p> <p>(2) 観光の考え方を「見せる」から「育てる」へ。</p> <p>(3) 民間が主役となる観光づくりへ。</p> <p>(4) 外国籍観光客の増加と受け入れ態勢は。</p> <p>(5) 白馬村との連携は。</p> <p>(6) 観光協会の自立と役割は。</p> <p>(7) 観光の評価に「質」を取り入れてはどうか。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 大町には、黒部ダムや青木湖、北アルプスの自然、そして人の温かさという、他にはない魅力がある。しかし近年、観光を取り巻く環境は大きく変わっている。お隣の白馬村では外国籍の観光客が急増し、今後数年間で宿泊施設が大幅に増える見込みである。大町でも青木湖や黒部ダムを中心に外国籍の方が多く訪れるようになったが、その流れをまち全体の活力につなげるためには、これまでの「見せる観光」だけでは十分ではない。 大切なのは、訪れた人が「また来たい」と思える大町を、地域の内側から育てていくことであり、道路や案内表示、トイレや休憩場所といった基本的な環境を整え、食や宿、おもてなしの質を磨き、地域の暮らしそのものを魅力として育て、行政が前に出て“やってあげる”観光ではなく、民間や地域の人々が主役となり、行政はその挑戦を支える役割へと変わっていくことが求められている。</p> <hr/> <p>【ねらい】 今回の質問では、観光の“見せ方”ではなく、“育て方”に重点を置いた政策への転換を求めたいと考える。観光客の多様化、特に外国籍の来訪者の増加という現実を踏まえ、受け入れ態勢の整備や地域の内側の魅力づくり、そして民間が主役となる観光の仕組みづくりが必要である。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
6	11番 小澤 悟 [一問一答]	<p>1. 東山観光エリアについて</p> <p>(1) 東山観光エリアは当市にとって宝か、荷物か考えを問う。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 大町公園・山岳博物館・鷹狩山などに多くの市民・観光客が訪れているが、駐車場の問題やトレッキングコースの整備など、稼ぐ観光地になっていない。</p> <hr/> <p>【ねらい】 当市が目指す観光の将来像「持続可能で、稼げて、市民と観光客がともに満足する観光地」とするための施設整備等の考えを問う。</p>
7	1番 西澤 和保 [一問一答]	<p>1. 大町市の防災体制について</p> <p>(1) 4月18日に発生した地震における組織体制はどのようなものであったか。 ①災害発生時等における情報発信の不備と強化策は。 ②職員の防災意識の高揚と人員配置の強化を。 ③災害時応援協定は機能するのか。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 4月18日に発生した地震対応を背景に、発生時から災害警戒本部解散に至るまでの大町市の組織体制の経緯と取組みを、市民にわかりやすく説明をいただきながら、今後の教訓とするための検証の必要性及び、組織体制や支援体制、情報発信の強化等を論点とする。</p> <hr/> <p>【ねらい】 大規模災害が発生した際に、行政はどのような体制で、どのような対応にあっているのかを、市民のみなさまに理解をいただくことで、今後の自助・共助の必要性も理解していただくことをねらいとする。 (1) 災害対応における不備や問題点の検証と改善への提言 ①情報発信の在り方について、再検討の必要性を提案する。 ②組織体制の強化と役割や人員配置の重要性を考える。 ③被災者への対応を考える。</p> <hr/> <p>2. 災害時の子ども支援について</p> <p>(1) 避難時における子どもに対する支援策はあるのか。 ①子ども支援の体制づくりはどこが行うのか。 ②子ども支援への理解に向けた取組みは。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
7	1番 西澤和保 [一問一答]	<p>【背景・論点】 避難生活の中で対策が遅れているとされる、こどもに対する支援について、市民の理解と対策や方針が必要である。</p>
		<p>【ねらい】 今回の質問は、対策への遅れが指摘されているこどもへの支援を考える足がかりとする。 ①大町市におけるこども支援の対策の状況や方針等を問う。 ②幼児を所管する部署と小・中学生を所管する部署が分かれている中で、こども支援といった共通の課題を、どこが担当し検討するのか問う。 ③指定避難所などにおいては、地域で取組むことが必要な課題であるが、地域への理解を進める方法は。</p>
		<p>3. 過去の災害から学ぶ対策と今後の取組みについて</p> <p>(1) 災害形態の変化とこれからの対応への取組みは。</p> <p>(2) 防災への啓発や防災教育の取組みは。 ①共助としての自治会等への啓もう活動と、自助としての個人や家庭への啓発活動の進め方は。 ②学校教育における防災教育の必要性などの考え方を問う。</p> <p>(3) 過去の災害対応と今後の大町市の防災体制の在り方とは。</p>
		<p>【背景・論点】 過去の教訓と、気候変動や多様化・激甚化する災害を背景に、地域住民の防災意識の高揚に向けた取組みが重要である。</p>
		<p>【ねらい】</p> <p>(1) 豪雨災害やゲリラ豪雨、鳥獣被害などへの取組みについて問う。</p> <p>(2) 防災意識を高める上では、地域住民が互いに助け合う「共助」や、自分の身は自分で守るといった「自助」の意識が欠かせない。 この取組みをどのように進めて行くのか。 また、自助共助について、学校における防災教育の必要性を問う。</p> <p>(3) 過去からの教訓と今後の大町市の防災体制全般について問う。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
8	5番 太田 昭司 [一問一答]	<p>1. 防災について</p> <p>(1) 本年4月18日に発生した県北部を震源とする地震による市内の被害状況は。</p> <p>【背景・論点】 昨年4月18日には市内において震度5弱、本年4月18日には震度5強の地震が発生した。その後も国内では震度5クラスの地震がいくつも発生している。このように地震活動が活発化する中、今後も市内において震度5クラスか同等以上の地震が発生する可能性を考慮し、防災意識を高める必要がある。</p> <p>【ねらい】 今後、市内において震度5クラス以上の地震が発生することも考慮し、自治体、各団体、そして各家庭においても日頃から地震に備えておく必要がある。これまでに発生した大規模地震の教訓から、万が一に市内で地震が起きた場合の避難所の在り方、要支援者の支援など、見直すべき多くの課題がある。 また、今後は「女性の視点」、「フェーズフリー」、「受援力」といった観点からの防災の取組みも重要になる。</p> <p>2. 人権と命を守る取組について</p> <p>(1) 命を守るための教育と支援の現状は。</p> <p>【背景・論点】 SNS、インターネット等の普及により、私たち、特に子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、犯罪等に巻き込まれる確率が高まっている。特に女性の人権と命を脅かす性犯罪等も増加し、そのための対策は急務となっている。また、小中高生の自殺も2025年には全国で538人となり過去最多となった。子どもの命を守る対策も喫緊の課題である。</p> <p>【ねらい】 女性・子どもの人権と命を守るための取組みとして、小さな頃からの「命を守るための教育」が重要である。そして、このような教育は、男性にとっても、加害者・被害者・傍観者にならないために必要不可欠である。 また、今後は子どもの命を守るため、学校、医療機関、児童相談所、民間団体等の連携の強化も重要である。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
9	7番 大竹 真千子 [一問一答]	<p>1. 大町市の生活環境と定住人口を守るための対策について</p> <p>(1) 白馬村における定住人口の流出について、市の現状認識は。</p> <p>(2) 居住実態のない遠隔オーナーによる住宅型宿泊施設の無秩序な増加を抑制することに対する見解は。</p> <p>(3) 定住する人たちが安心して暮らせるまちにするために、すべきことは何か。</p> <hr/> <p>【背景・論点】 隣接する白馬村では、インバウンド観光の急拡大に伴い、一般住宅地において旅館業許可を取得した戸建て宿泊施設が急増した結果、深夜の騒音、ゴミの不適切排出、駐車問題などの迷惑行為が頻発し、地価・家賃の高騰と相まって、今まで定住していた人たちの離村が続いている。大町市においても、旅館業許可を取得し、一般住宅を宿泊施設にする同様の動きがいくつか確認されている。白馬村の事例を教訓として、同様の問題を避けるために、課題の整理と未然防止策の検討を行うことが求められる。</p> <hr/> <p>【ねらい】 白馬村の事例を参考に、旅館業法の制度的空白を市として公式に問題化し、居住実態のない遠隔オーナーによる住宅型宿泊施設の増加を未然に抑止するため、市独自の具体的対策を引き出したい。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
10	6番 中村直人 [一問一答]	<p>1. 子育て環境の充実による地域の魅力化について</p> <p>(1) 今求められる子育て・教育支援と地域資源の活用について</p> <hr/> <p>【背景・論点】 出産・産前産後支援については、市立大町総合病院の役割や近隣自治体との広域的な医療提供体制を踏まえつつ、市として身近な相談支援や産後ケアをどう担うかが重要である。 また、子育て家庭の課題は、経済的困難、孤立、発達、学校生活、生活困窮など複合化しており、福祉・保健・医療・教育・地域活動等、広い分野を横断的に捉えた支援体制の構築が求められる。 さらに、学校の再編の中、子どもの健康を守る教育・啓発、文化・スポーツ活動への参加機会の保障、施設や地域資源の活用も、子どもを中心に据えた政策として整理する必要がある。</p> <hr/> <p>【ねらい】 少子化や人口減少が進む中で、子どもを安心して産み育てられる環境整備は、福祉政策にとどまらず、地域の将来を左右する課題である。 今回の質問では、地域の「子ども」をテーマの中心に据え、妊娠期から子育て期、学び、健康、文化・スポーツ活動までを含め、現在どのような支援が求められているのかを確認する。 あわせて、このような取組みを地域の魅力として高め、子育て世代や若者に選ばれるまちづくりにつなげるための考え方を問う。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
1 1	10番 宮田一男 [一問一答]	<p>1. 地下水の保全について</p> <p>(1) 地下水の水位モニタリング状況について問う。</p> <p>(2) 水販売を目的とした企業活動が地下水位低下に影響していないか。</p>
		<p>【背景・論点】 農業用水の減少が見られる。</p>
		<p>【ねらい】 水資源を未来につなぐことが求められている。</p>
		<p>2. 農作業中の事故防止について</p> <p>(1) 農作業中の事故の発生件数は。</p> <p>(2) 事故防止の啓発活動状況は。</p>
		<p>【背景・論点】 トラクターの運転誤りによる転落事故が発生。</p>
		<p>【ねらい】 農作業中の事故防止。</p>
		<p>3. 公の施設の指定管理制度について</p> <p>(1) 指定管理制度について問う。</p> <p>(2) 施設管理の責任について問う。</p>
		<p>【背景・論点】 長期にわたり明日香荘の営業休止状態が続いている。</p>
		<p>【ねらい】 指定管理制度の適切な運用。</p>

順位	議席番号 氏名 [質問形式]	質問項目及び要旨
12	堀 4番 一 [一括]	<p>1. 令和9～18年度の第6次総合計画について</p> <p>(1) 人口減少は10年後には2万人を切る。高齢化率が40%を超えた。介護・医療の安心確保を。</p> <p>(2) 上下水道の利用者減による料金負担の増大について問う。</p> <p>(3) 少子化が激しい。10年の内に小学校も1校化を検討すべきでは。</p> <p>(4) 自治会員の減少や高齢化が急速に進んでいる。自治会負担を減らすために配布物は全てデジタル配信とすべきだ。</p> <p>(5) 中心市街地活性化策の効果は全く見られない。全面的見直しを図るべきだ。</p> <p>(6) 国際芸術祭は、第4回で結果が出せなければ中止の検討を。</p> <p>【背景・論点】 人口減少は全国的現象で、止める手段はない。ならば、高齢化・少子化の進む大町で、何を重点に予算配分するのか。市民幸福の追求は、行政だけではできない。市民の皆様との協働の力が求められる。</p> <p>【ねらい】 10年の総合計画は大町市の最高位の計画だが、過去の計画を見ても総花的になるのが心配だ。厳しい内容になろうとも、市民の皆様には本当の10年後をきちんと示せる総合計画とすることを望む。</p>

令和8年 大町市議会 6月定例会

市政に対する一般質問通告者及び発言順位

質問 順位	会 派 等 名	議 席 番 号	議 員 名	質問形式	抽選 番 号	登壇日	持ち 時 間	開始時刻	終了時刻
1	個 人	1 4	二 條 孝 夫	[一括]		6月3日	40	10時00分	10時40分
2	個 人	1 2	中 牧 盛 登	[一問一答]			(50)	10時55分	11時45分
3	個 人	9	栗 林 陽 一	[一問一答]			(50)	13時00分	13時50分
4	個 人	1 6	大 和 幸 久	[一問一答]	1		(50)	14時05分	14時55分
5	個 人	1 3	山 本 みゆき	[一問一答]	3		(50)	15時10分	16時00分
6	個 人	1 1	小 澤 悟	[一問一答]	4	6月4日	(50)	10時00分	10時50分
7	個 人	1	西 澤 和 保	[一問一答]	11		(50)	11時05分	11時55分
8	個 人	5	太 田 昭 司	[一問一答]	12		(50)	13時00分	13時50分
9	個 人	7	大 竹 真 千 子	[一問一答]	13		(50)	14時05分	14時55分
10	個 人	6	中 村 直 人	[一問一答]	14		(50)	15時10分	16時00分
11	個 人	1 0	宮 田 一 男	[一問一答]	15	6月5日	(50)	10時00分	10時50分
12	個 人	4	堀 堅 一	[一括]	16		40	11時05分	11時45分

※①所要時間は、分単位

②一問一答方式を選択した議員の所要時間は()書きで表示し、50分としています(質問時間は20分)。

③所要時間、開始時刻及び終了時刻は目安です。進行状況等により、前後することがあります。